SHATAI NEWS

巻・頭・言

当社とバス事業に関して

資材部会会長　泉　龍彦

資材部会長に就任して既に1年以上が経過しました。この間、学ぶべき点も多く会員各位のご協力により部会長の職責を果たすことが出来ました。この欄をお借りして深謝申し上げます。

部会を構成する会員各社の事業分野は大変多岐に亘っています。装置製品、部品、素材、コンシューマー商品とあらゆる領域にスソ野が広がり、自動車がわが国の基幹産業であることを、あらためて認識しました。

わたくしどもの企業では製造物そのものが部品であり同時にコンシューマー商品という二面性を有しています。当社の簡単なプロフィールをご紹介させていただき、バス事業に関する私見を述べさせていただきます。

当社は1948年にわが国最初の車載用ラジオを開発しました。当時の製品は大変大きく且つ重く唯一の販売先は観光バスでした。その当時、レジャーと言う言葉が緒についたばかりでした。レジャーイコール観光バスと言う時代です。クルマにラジオが取りついた最初はこのような状況からでした。

同時に製品の小型軽量化がすすみ乗用車への採用―1952年に純正品としてカーメーカーへの納入が始まります。

カーラジオ普及の秘話として語り継がれていることに交通情報のラジオ放送があります。1962年、警視庁に交通情報をラジオで放送しドライバーへの情報提供するよう働きかけ、同時に東京放送（TBS）へ交通情報の番組制作を提案しスポンサーとして放送開始にこぎつけました。

カーラジオの普及にともない以降、カーステレオ、カーナビ、テレマティクスなどの製品を開発し今日に至るのですが、その原点はバス用製品の開発でした。

現在のバス関連商品は多岐にわたっています。路線バスには車内放送装置、行先表示LED方向幕、車両の位置情報を停留所に表示するバスロケーションシステム、FM文字放送の車内表示システムなど多彩な製品が装備されています。

観光バスでは複数チャンネルで音楽をシートに流すマルチチャンネルシステム、シンセサイザーカラオケなどで旅路のお供をしています。また、安全をサポートする製品として後方確認カメラシステムがあります。この製品は路線バスのワンマン化にともないバス会社の要請で開発したもので、現在では商用車に普及しており、側面確認、前方確認など用途も広がり、一部乗用車にも装備されています。当社は専門メーカーとしてバス業界の発展にいくばくかのお役にたって参りましたが業界唯一の専門PR誌も発行しております。

1974年創刊で隔月出版「バス機器ニュース」といいます。18ページ建、発行部数は3000部強、無料。

主な読者層はボディメーカー、架装メーカー、カーメーカー、バス会社、官公庁、マスコミ、日本自動車車体工業会をはじめとする各種団体などです。

内容は業界動向、新技術の動向、バス会社の特徴にスポットを当てた特集、著名人のバスエッセイ、当社製品の紹介など。

バス業界は将来の成長に向けてさまざまな対応を打ち出しています。

公共交通機関活性化のため「バス優先」のかけ声のもとバスレーンが積極的に導入されたのは1970年代でした。

一方、都市間高速バスも1964年に運行が開始され、70年代には着実に路線を増やしました。高速バスのメリットは競合輸送機関と比べて圧倒的な料金の割安感ですが、もう1つのメリットは目的地とストレートに結ぶ利便性です。

前述のバスレーンの設置に併せてバス車両のグレードアップ、バリヤフリー化（低床化、ワイドドア化、エアコン装備など）がはかられ、同時に運行状況が利用者にもリアルタイムで分かるバスロケーションシステムが導入されました。

さらに、デマンドバス、ミニバス、ワンコイン運賃制など、利用者の立場を重視するさまざまな運行形態がとられています。

今後期待されるのは非接触ICカードがあります。

バス利用者にとって小銭の用意や乗車券を都度購入しなくてよく、いろいろなプレミアムやポイントサービスが期待されます。一方、バス事業者にとっても運行管理などに絶大なメリットが発揮されます。

世界各国でバス用非接触ICカードの導入がはじまっています。本格的な導入にはイニシアルコストに課題はありますが、バスのICカードが単に使い勝手のよさのみならず電子マネー化することにより、地域社会と連帯して活性化されることが期待されています。

また、海外に目を向けますとEU統合による欧州大陸横断バスや都市間高速バスの普及で市場が活性化しており、そこには都市それぞれの経済的自立が存在しています。

わが国も大都市集中から地方都市の復活による経済の底上げが期待され、ひいてはバス業界の新たな成長を信じてやみません。

（クラリオン㈱取締役社長）